

『「今」はどのよつな時か』

(ローマ13・11～14)

一、「今」はどのよつな時か

11節をご覧ください。《さらにあなた
がたは、今がどのような時であるか知
っています。》とあります。《さらに》の
元のことばは、「そして、また、それか
ら、こうして、しかるに、しかも、しか
し、なお」と訳される接続詞です。新改
訳2017は《さらに》、新共同訳と聖
書協会共同訳も《更に》(さらに)とし
ています。接続詞を訳出することによ
り、前の節とつながっていることを、読
者は読み取ることとなります。

そのことはいったん置いておきまし
て、11節が語っていることに耳を傾け
てまいります。《今がどのような時であ
るか》とは、過去から現在、そして将来
に向かって流れている時間の中で、今
自分がどこにいるのかを知ることです。
旧新約聖書が語っているのは、世界は
神の被造物であって、「はじめ」があり、
「終わり」があることです。聖書の世界
観によれば、御子イエス・キリストがお
生まれになった時から、終わりの時に
なりました(ヘブル1・2)。ですが、
終わりの終わりはキリストがもう一度
お出でになることによって、そうなり
ます。11節3文目に《私たちが信じた

ときよりも、今は救いをもっと私たち
に近づいているのですから。》とありま
す。(ここで語られている《救い》は、キ
リストの再臨のことです。そういうわ
けで、「今」は終わりの時であり、キリ
ストがもう一度お出でになる日の前、
ということになります。主の日、すなわ
ち再臨は盗人のようにやってまいりま
す。ゆえにパウロは語ります。2文目で
す。《あなたがたが眠りからさめるべき
時刻が、もう来ているのです。》と。

12節以降を見る前に、10節の《愛は
隣人に対して悪を行いません。それゆ
え、愛は律法の要求を満たすものです
とのつながりを見ておきたいと思いま
す。隣人を愛すること、キリストの再
臨が近いこととどのように関係してい
るのでしょうか。それは、キリストの再
臨が近いのだから、言い換えるなら今
の時代の終わりが間近に迫っているの
だから、神の御意思の現れである、隣人
という他者に対して、愛を実践しよう
というメッセージです。

二、自発的であることが肝要

さて11節を別の角度からも見て行き
たいと思います。パウロは巧みに語っ
ていると言いましようか、よく考えて
語っていると思えます。11節1文目と
2文目は《あなたがた》ということばを
使い、3文目は《私たち》ということば
を使っているからです。こうして、手紙

の受け取り手は、「あなたがたはこうす
るべきである」として聞くというより
も、「私たちはこうすることが大切であ
る」と気づくように語られています。

こういうことを考えてみられてくだ
さい。パウロが手紙を通して聞き手に
伝えた「ローマ人への手紙」は、聖書に
組み込まれた以降は神のことばと読ま
れますが、パウロが手紙を出した時点
では「語り手パウロ」対「聞き手ローマ
の教会の教会員」という構図です。そう
いうわけでパウロは、《あなたがた》と
《私たち》を言い分けています。それは、
ローマの教会に属する教会員たちの自
発性が呼び覚まされるためです。この
使い分けは12節、13節においても続き
ます。12節に《夜は深まり、昼は近づ
いて来ました。ですから私たちは、闇の
わざを脱ぎ捨て、光の武具を身に着けよ
うではありませんか。》とあります。さ
らに13節も「私たちは」という訳語こ
そはありますが、主語は「私たち」で
す。また、《遊蕩や泥酔、淫乱や好色、
争いやねたみの生活ではなく、辱らし

りませんか。》とあります。なぜキリス
ト者に宛てた手紙に、このような文言
を使ったのでしょうか。解説書によれ
ば、《遊蕩や泥酔、淫乱や好色》は、悪
徳を表す、当時一般的に使われていた
ことばであったとのこと。この四
つはいずれも複数形になっていますの

で、一般的な意味であることがはっき
りします。もちろん、キリスト教会に全
く関係のないことではありませんでし
た(1コリ11・21)。13節の《争いや
ねたみの生活ではなく》に、注目してく
ださい。こちらは、どちらも単数形です。
これこそは、教会の中で起(こ)りがちな
事です。《争い》は、多くの場合、主導
権争いから、男性信者に現れる問題で
す。また《ねたみ》は、どちらかと言え
ば、女性信者に現れやすい問題です。
「私たちは、それらをやめようではな
いか」と、パウロは促しています。

三、主イエス・キリストを着なさい

最後に、14節を見てまいります。《主
イエス・キリストを着なさい。欲望を満
たそうと、肉に心を用いてはいけませ
ん。》とあります。14節の主語は訳出さ
れていませんが「あなたがた」です。そ
うしますと、口語訳聖書が主語を訳出
していますので、分かりやすいです。さ
らに14節の冒頭には、元のテキストに
は「しかし」という接続詞がありますの
で、これを口語訳に加えて、「しかしあ
なたがたは、主イエス・キリストを着な
さい。肉の欲を満たすことに心を向け
てはならない」と読んだら、分かりやす
くなります。主イエス・キリストを信じ
信頼しているなら、自ずとキリストが
身に着くようになります。それは、御霊
なる主の働きです。